英検1級合格のための学習法

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　島根県立松江東高等学校　緒方　孝

はじめに

英検１級の学習法については、インターネット上のさまざまなサイトで見ることができる。それらの多くのサイトが提唱している学習法と同じように、ここで紹介する内容についても、あくまで筆者個人の見解を多く含むものであるので万人に合うとは限らない。だが、どんな試験でも合格するために必要なことは常に以下の２点に集約されるはずである。

**１．自分の現在の実力と合格ラインとの距離を正確につかみ、基礎基本を軽視せず、自分の弱点を素直に認め、一歩ずつ階段を上るような努力ができること。**

**２．その試験の出題傾向をつかみ、最終的に暗記していくべき知識と、高めていくべき思考力と技能が、その傾向や難度に合致するような学習内容、方法で学習すること。**

英検１級は最高難度の試験であるから、「現地の大学に留学する」、「TIME誌を読む」、「洋画のを字幕なしで見る」といった、生のレベルの高い英語に数多く触れることが合格の最善の策と思う人間が多い。理想論でいえばそうであろう。だが、とにかく「合格すること」に主眼を置けば、これらは学習の方向性としてはズレているとは言わないまでも、あまり効率的ではない。したがって、学習のペースメーカーやモチベーション維持の手段として、自らの人生を豊かにするものとして、そして日々の楽しみとして生の英語に触れたり、英語で実際にコミュニケーションをとったりすることは素晴らしいことである。しかし、比較的短期間で効率よく学習し合格しようと思えば、メイン学習はやはり、市販の対策教材かそれに準ずるものを使用したものであるべきだろう。

英検１級の難度と内容

英検１級の合格率はおおむね８％～１０％であり、１０人いれば９人は落ちる試験である。さらに、準1級までは８０％以上である二次面接の合格率も、1級は５０％強である。さらにそのうち、二次を一発クリアできる受験生は２割～３割程度にすぎないと言われている。この数字からわかるように、英検１級は並大抵の努力では合格できない。具体的に言えば、準１級レベルに到達（TOEIC730=Ｂランク以上）してから、猛勉強を最低半年～1年続けてようやく勝負になるくらいの難度である。つまり、大学入試に向けた受験勉強の苦しみをもう一度進んで味わうくらいの意気込みが必要である。

なお、最低でも下記①～③がクリアできていないと、英検１級の相手ではない。まずは、準１級、ＴＯＥＩＣにチャレンジし、自分の現時点での英語力を確認しておきたい。

|  |
| --- |
| **①英検準１級の問題（自己採点ができない英作文除く）を解いて９割以上得点できる。****②ＴＯＥＩＣがＡランク（スコア８６０以上）である。****（実際に１級合格するには９００点台中盤の力が必要）****③センター試験（筆記）を半分の時間（４０分以内）で解いてほとんど満点が取れる。** |

１級一次の問題構成は以下のとおりである。次項から各設問別の学習方法について述べる。

英検１級一次の配点

**１１３点満点。合格点はほぼ８０点前後**

大問１　語彙・熟語　　　　　２５点 （マーク）

 大問２　読解　空所補充　　　　６点 （マーク）

 大問３　読解　内容把握　　　２０点 （マーク）

 大問４　作文　　　　　　　　２８点 （記述）

 大問５　リスニング　会話文　１４点 （マーク）

 大問６　リスニング　一般文　２０点 （マーク）

各分野の学習法

**大問１　語彙対策**

１級合格の最初にして最大の難関である。合格者でもこの大問の得点率は他の問題に比べて低い。しかし、ここで２０点以上の得点を安定してとる力がつけば、合格がグッと近づく。出題される語は１万語レベル以上の語であり、極めて難しく覚えにくいものばかりである。たしかに、読解力やリスニング力で語彙力の不足はある程度カバーできる。しかし、英検１級保持者は社会的な問題や、やや専門的な話題について正確に英文を読み取ったり、深い議論をしたりすることが期待されている。そのためには、このレベルの語彙を数多く習得することが将来的に絶対必要である。また、読解問題などのように思考問題と違い、語彙問題のような知識問題は知識さえつけてしまえば確実に得点源になる。ぜひ下記の教材をすべてマスターし、１級保持者にふさわしい語彙力を身に着けてほしい。なお、語彙力だけでなく、四技能をバランスよく学習して強化していくことが英語学習では大事、とよく言われるが、それはあくまで理想論である。というのも１級では覚えるべき語が多すぎて、少しずつ続けてもかえって挫折しやすいからである。あえて言いたいが、最初の３～４か月は語彙力強化に集中すべきである。とはいえ、覚えれば覚えるほどものすごい勢いで忘れるので、くじけずに復習を続けていくことが大切である。基本的にこのレベルの語彙は１単語につき１定義が思い浮かべば十分であるが、読解力の向上を同時に図るためには、単語集の中でその語が使われている例文もきちんと目を通しておきたい。そのような例文を活用しながら単語学習を続け、この大問で毎回２０点以上とれるくらいの語彙力がついたころには、読解力自体も伸びているはずであり、一次合格の可能性はかなり高いといえる。

大問１　２０点ｸﾘｱのための教材

この４冊をすべてマスターすれば、第１問で８０％以上得点できる。なお、１～３については、準１級版も同時購入し、準１級レベルの語彙で「抜け」ているものを必ずつぶしておくこと。

**１．『英検1級でる順パス単』（旺文社）**

**２．『英検1級語彙・イディオム問題500』 (旺文社)**

**３．『英検1級 文で覚える単熟語』（旺文社）**

**４．『1100 Words You Need to Know』（BARRON’S）　→　単語上級者の定番教材である**

**大問２、３　長文対策**

基本的には過去問を５年分くらい解くことから始める。初めて解くときには設問に関係ない個所は流し読みしてもよいが、答え合わせの際には必ず日本語訳と照らし合わせながら精読していくことが大切である。要は速読と精読の両方の訓練をしなければダメである。過去問が終わったら予想問題にチャレンジする。安定して８割以上の正答率が出せるようであれば、むしろ語彙やリスニング、英作文、二次対策に学習の中心をシフトした方がよいだろう。

　TIMEやECONOMISTの定期購読を推奨しているサイトも多いが、残念ながらこれらは英検１級長文の難度をはるかに上回る英語（特に専門的な語彙やネイティブででないと分かりにくい比喩表現やレトリックを使っているもの）で書かれた文章が多いうえ、和訳が（一部を除いて）入手できないため、結局わからないところや解釈が違っているところをそのまま放置してしまう場合が多い。さらに、やさしめのペーパーバックなどの多読をすることも、確かに速読力はつくのかもしれないが、「英検１級合格に必要な読解力」をつけるうえで、それらが本当に寄与するかどうかは疑問である。そして何と言っても、英検１級の長文は設問の答えを探すために読むためのものであるが、書籍はただ読んで理解、鑑賞できたら終わりである。それを考慮しても市販の対策教材に勝るものはない。

出題形式はオーソドックスな英文中での語句補充と、内容一致問題である。英検準１級、２級やセンター試験の長文問位と同様、設問に先に目を通し、答えが書いてある周辺を集中的に探る、という解法で通用する。語彙レベルは大問１で問われるような難度の単語はあまり出てこず、多くは大学入試～準１級レベルである。「知らない単語はほとんどない、だけど正答率が低い。解説を見てもなぜその答えになるか分からないことが時々ある」人は、根本的に読解力そのものが英検１級レベルからかけ離れていると考えられる。そのような人はまず準１級やTOEICの問題を、安定して９割以上正解できるようになるまで数多く解いていきたい。

英検以外の市販の学習教材では、この難度に匹敵するものが少ない。TOEIC、TOEFLの読解問題は速読目的以外で使うには易しすぎる。あえて言えばGMAT（ネイティブ向けのビジネススクール適性試験）の英語試験、国連英検（A級以上）の問題集が有効であろう。

**大問４　英作文対策**

　トピックについて、6つの指定されたキーワードのうち３つを使用し、３パラグラフ以上のエッセイを200語前後で書く問題である。採点基準は下記のようなものだと言われているが、詳細は不明である。分量が基準を満たし、ある程度構成がしっかりしており、ミスが少なければそれなりに高得点は出やすい（合格者平均は実際２８点中２０点前後）。

**（参考）2014年度第1回トピック：**

**”Do the benefits of free trade outweigh the disadvantages?”　　　　　　　　　　　　　　　自由貿易の利点はその短所に勝るか？**

**[使用キーワード: Competition　/ Consumers　/ Economic growth　/　　　　　　　　　　　　　　　 Environmental concerns / International relations/ Tradition and culture ]**

**採点基準（おそらく）**

**１．自分の意見がきちんと述べられているか。**

**２．意見が、複数の理由やそれをサポートする実例などによって裏付けられているか。**

**３．妥当な論理展開がなされているか。**

 **４．文法・語彙の間違いがないか。**

**（上記１～４に加え、英文量やキーワード使用の有無、トピックと主張との整合性などを総合的に判断して採点していると思われる）**

 ここも語彙問題動揺、確実に２０点以上とる力をつけたいところである。学習法としては、過去問の出題テーマを使って練習するのが最も良い。最低、過去問１０年分（計３０問）と予想問題２０問の、計５０本以上は作文を書く必要がある。実は、この練習自体が二次面接のスピーチ練習につながる。二次面接のスピーチは２分間で最大２００語くらい話すのが目安であるが、一次の英作文も同じ分量である。また、パラグラフ構成を意識しなければならないという点も全く一緒である。

　過去問の模範解答はあまりによくできており、あくまで参考程度にとどめておくのが良い。大切なのは自分が得意とする構成パターンに常に持ち込むことである。たとえ、特に、以下の構成は最も書きやすく、二次面接でもそのまま使えるパターンなので参考にしてほしい。

**１．主張　　　　　　私はトピックについて（賛成です（反対です）　/ ○○だと思います）**

**２．反対意見擁護　　確かに××という理由で、―という人も中にはいます。**

**３．主張の繰り返し　それでも私は○○のように思います。**

**４．理由１　　　　　１つ目は、□だからです。**

**５．理由１補足　　　（４を具体例などで補足）**

**６．理由２　　　　　２つ目は、△だからです。**

**７．理由２補足　　　（６を具体例などで補足）**

**８．理由３　　　　　最後に、◇だからです。**

**９．理由３補足　　　（８を具体例などで補足）**

**１０．まとめ　　　　　このような理由で、私はトピックについて○のように思います。**

このような構成を頭に入れておき、どんなテーマでも２０分程度で作文を完成させることができるように練習をしていきたい。なお、さまざまな視点から意見を言うためのネタ本、また論理的な文章を書くうえでのコツを学ぶための教材として、多くの受験生が使用しているテキストが**『英語で意見を論理的に述べる技術とトレーニング』**（植田一三）である。同著者による**『英語で経済・政治・社会を討論する技術と表現』も**高難度ではあるが参考になる。主張を裏付ける理由（補足）がなかなか短時間で思いつかない人も、これらの本を参考にしながら作文を２０本、３０本と書いていくうちに、自分で使えるネタのストックがかなりたまっていくはずである。そうすれば、以下のような視点から理由が言える場合が多いことに気付き、よりスムーズに作文を完成させることができる。

**コスト的な視点からどうであるか？**

**環境保護的な視点からどうであるか？**

**経済発展の視点からどうであるか？**

**倫理的・人道的・民主的な視点からどうであるか？**

**健康・安全・治安の面でどうであるか？**

よくあるパターンの構成、よく耳にする内容で構成された作文は往々にして陳腐であり、読み手にとっては学ぶことが少なく面白くはないかもしれない。しかし、これは弁論大会で高得点をとるための原稿ではない。英作文試験は、内容がつまらなくても、構成がお決まりのものであっても、採点基準さえ満たしていれば減点される要素は全くないのだ。なお、せっかく完成させた作文はできればネイティブに添削してもらったほうがよい。そして、自分の作った作文の要点を押さえながら、それを口頭で言う訓練をぜひ合わせて行ってほしい。そうすれば十分に二次対策にもなる。

**大問４　リスニング対策**

英検１級に合格すれば、英語ニュースや洋画が字幕なしで自由に聞き取れる、と思うかもしれないが、それら（特に洋画）は英検１級リスニングよりも発話スピードがはるかに速く、数段ハードルが高いタスクである。従って学習のメインとしてはやはり、１級そのものの過去問や予想問題（例：『英検リスニング問題150（旺文社）』）を何回も聞いて解く、ということになる。その際、スクリプトを見ながら丁寧に聞き取れなかった箇所を確認すると同時に、複雑な文の構造をきちんと把握し、スクリプトを見なくても意味がつかめるようなるまで複数回聞くことが大切である。１級ともなればつい特別な「英語耳」が必要なのではないかと焦り、聞き流しているだけでリスニング力がアップするような教材や、速聴教材や右脳開発教材に手を出してしまいがちである。これらの効果がゼロとは言わないが、巷で宣伝されているほどの「劇的な効果」を期待してはいけない。そもそも英語学習において「魔法のように力が付く学習法」はあり得ない。高難度の試験ほど、しっかりと地に足をつけて地道に訓練に取り組むことの大切さを日々意識していなければ合格できない。

ある程度実力のある人が「スクリプト付きの」ニュースや洋画を聞き取ることは、リスニング力全般を上げるうえで有益な練習には違いないが、残念ながらこれらには「問い」がついてない。英検１級のリスニング問題で必要とされるものは、選択肢を高速で先読みして聞き取る焦点を絞り、長めの対話やアナウンスを聞きながら必要に応じてメモをとっていくという能力である。やはり、問題形式になっているものを数多くこなすことが無難であろう。もちろん複数回聞いてシャドーイングやリピーティングを繰り返した方が効果的である。この分野に関して言えば、TOEICやTOEFLの問題集を使って練習することも十分役に立つ。特にTOEICの問題集は膨大な種類が出版されており、無限に練習が行える。中でもPARTⅢ、Ⅳは長めの対話、アナウンスなどを聞き取りつつ、正しい選択肢を選ぶ問題であるので、１級の練習としては有効である。

ただし、英検１級のリスニング問題の出題テーマは、社会、環境、歴史、国際問題など多岐に渡るのに対し、TOEICはビジネスでの場面、TOEFLが学術的な内容に特化したものが多く出題されるという傾向があり、さらに英検の選択肢はときどき特有のトリッキーさを持つものがあるので、直前期にはやはり英検の対策問題に取り組みたいところである。

ニュースや洋画よりも問題集、と先ほど述べたが、１級を合格した暁にはこれらを自由に聞き取れるようになりたい、という思いはみな持っているだろう。マンネリを避ける意味でも、平素の学習にこれらを取り入れることは悪いことではない。しかし、本当の意味でリスニング力をつけようと思えば、スクリプトを見ながらきちんと聞き取れなかった箇所を確認し、全ての英文の文法構造までつきつめて考えることが絶対必要である。そうすることにとって読解力もつき、なおさらリスニング力の向上に寄与するはずである。なお、洋画を活用する場合は、有名映画１本の全セリフ（英語・日本語訳両方）が１冊の本に収録されている『スクリーンプレイ・シリーズ』をお勧めする。難解な英文構造や聞きなれない表現の解説までついている点が特によい。ニュースは、無理せずCNN STUDENT NEWSなど学生向けのものを聞いた方がよい。

**二次面接対策**

一次試験の合否発表から二次試験までの期間は約２週間しかない。こと１級に限っては２週間で二次対策をするのはほぼ不可能であり、最低でも１か月前（つまり一次試験の直後）には二次対策を始める必要がある。一次試験終了後にすぐ自己採点をし、英作文を除く部分が６０点近くあれば一次合格の可能性が十分あるので、直ちに気持ちを切りかえて二次対策に移行しなければならない。ただし、英作文対策の項でも触れたが、一次の英作文練習そのものが二次対策にも通じるような学習になっていれば、より余裕を持って二次に臨めるはずである。

　以下は、二次面接の詳細である。

**（１）二次試験の内容と採点基準**

**１００点満点のうち、２名の面接官（日本人１　ネイティブ１）が、各自にそれぞれ割り当てられた５０点分を採点する。合格点は必ず６０点以上である。**

**①２分間スピーチ　　　　　３０点（うち日本人面接官１５点　ネイティブ面接官１５点）**

**②質疑応答の内容　　　　　３０点（うち日本人面接官１５点　ネイティブ面接官１５点）**

**③使用語彙、文法の適切さ　２０点（うち日本人面接官１０点　ネイティブ面接官１０点）**

**④発音の適切さ　　　　　　２０点（うち日本人面接官１０点　ネイティブ面接官１０点）**

（**２）二次面接の流れ**

**①入室、簡単な会話（採点されない）**

**②与えられたカードに書かれている５つのトピックのうち１つを選択し、１分間でスピーチする内容を考える。**

|  |
| --- |
| 　　　　　　　　　平成２５年度　第２回トピック（原文は英語）世界の水産資源を乱獲から十分に保護できているか正当化できる戦争は存在するかニュースメディアを政府によって規制すべきか日本は他の国にとって良い経済発展モデルになるかナノテクノロジーは将来私たちの生活に大きな影響を与えるか |

**③２分間スピーチを行う。**

**④トピックおよびスピーチの内容についての質疑応答。おおむねそれぞれの面接官が２、３問の質問をしてくる。**

トピックの内容は、経済、科学技術、政治、国際関係、教育、医療など多岐に渡る分野から選定される。過去問および予想問題を参考にし、最低でも５０本以上のスピーチを作成する必要がある。その際、英作文と同様自分の必勝パターンを確立しておくことがポイントとなる。以下は前述の英作文で紹介したパターンを短くしたものであるが、最も使いやすいであろう。このパターンにあてはまるように話せば、だいたい１５０語～２００語程度におさまり丁度よいはずである。理由およびサポート文がスムーズに思い浮かぶようになるためには、インターネットでトピックに関する情報収集をしながら、本数をこなすことである。

**１．主張　　　　　　私はトピックについて ○○だと思います）**

**２．反対意見擁護　　確かに××という理由で、―という人も中にはいます。（省略可）**

**３．主張の繰り返し　それでも私は○○のように思います。**

**４．理由１　　　　　１つ目は、□だからです。**

**５．理由１補足　　　（４を具体例などで補足）**

**６．理由２　　　　　２つ目は、△だからです。**

**７．理由２補足　　　（５を具体例などで補足）**

**８．まとめ　　　　　このような理由で、私はトピックについて○○のように思います。**

問題集などの模範解答はあまりに良く出来すぎており、それをそのまま暗唱しても他のトピックに応用

できるわけではない。あくまで参考程度にし、自分のオリジナルのスピーチを作成していくことが大切である。もちろん、書きっぱなしだめで、その内容を瞬時に言えるように練習しておかなければならない。全文を暗記するのではなく、キーワードとキーコンセプト、流れを頭に入れておき、ほぼ作成したスピーチと使う表現は違えど同じような内容が再現できるように、口頭練習を繰り返すことが大切である。採点ポイントのうち、語彙文法項目は基準がはっきりしないので対策のしようはない。発音についても、短期間で上達させることは難しいが、ネイティブの真似をして早口でしゃべるよりも、多少ゆっくりであってもクリアでできるだけ正確な発音を心掛けるようにしたほうが、かえって評価が高いようである。

　質疑応答についても個人で対策を立てるのは難しい。ここはネイティブに講師をお願いすべきである。英会話学校などに連絡を取り、マンツーマンレッスンをしてくれる講師をまず見つけたい。できれば英検１級二次対策指導の経験がある先生が望ましい。自分で用意したトピックについてのスピーチを聞いてもらった後、それについて５～６問の質問をしてくれるように事前にお願いしておく。さらに、講師の側で用意したトピックで模擬面接までしてもらえると、より本番での即興性が養われてよい。ネイティブとのレッスンは二次までの１か月間で、４回～５回以上受けるとよいだろう。

　また、流暢さをあげるため、即座に使える英文量を増やしていく必要がある。『瞬間英作文トレーニング』（ペレ出版）シリーズなどを使い、通勤時などに音声を聞きながらシャドーイングを繰り返す。できるだけたくさんの英文が口を突いて出てくるよう日々学習のサイドメニューとして、このようなトレーニングを行なっておきたい。

さいごに

　日本英語検定協会によると、１級取得者の英語力は以下のように想定されている。

　　**総合力：広く社会生活で求められる英語を十分理解し、また使用することができる。**

**読む力：社会性の高い幅広い分野の文章を理解することができる。**

**聞く力：社会性の高い幅広い内容を理解することができる。**

**話す力：社会性の高い幅広い話題についてやりとりすることができる。**

**書く力：社会性の高い幅広い話題についてまとまりのある文章を書くことができる。**

１級に合格したからと言って、直ちに実践レベルで上のようなことができるわけではない。じっさい、合格者の多くは合格通知をもらった瞬間、喜びに加え、自分の力のなさを改めて痛感し、謙虚に襟元を正そうとする。英検１級の合格は最終到達点ではない。実は、ネイティブに少しでも近づくためのスタートラインにようやく立ったに過ぎないのだ。これからようやく、英語雑誌、英字新聞、洋画、ラジオニュースなどを使った本当の英語学習が始まるのである。